
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 352 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.05.16 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1,092 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 軽視できないヘイトスピーチとネット社会 渡邊 博

<第 145 回 定例研究会予告>

TPP 交渉参加を問う—選択肢は TPP だけか? (2013.06.08)

金哲洙氏 (日本農業新聞記者)・吉田太郎氏(キューバ農業評論家)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました

<編集後記> 憂鬱な気分からの脱出

<巻頭言> 軽視できないヘイトスピーチとネット社会

今年の 2 月だったと思う。私用で新宿大久保界隈を歩いていると、公園で異様な集会に出くわした。反韓、反中の集会なのはすぐ解ったが、異様だったのはプラカードに書かれたスローガンやシュプレヒコールの過激さと、その内容には不釣り合いな集会参加者である。

「半島に帰れ」、「殺せ」というヘイトスピーチ (憎悪表現) 的スローガンを叫んでいる参加者は、見た目にはごく普通の 20 代、30 代の若者たちである。生粋の右翼でもここまで過激な表現はしないのではないかと思うくらいである。あとでわかったことだが、彼らの殆どはインターネットの呼びかけで集まってきた、いわゆるネット右翼と呼ばれる若者たちらしい。

インターネット社会では、このような極端な主張がまかり通りやすい独特の環境がある。だからといって所詮少数派だと軽視するのは危険である。

一般的な言論、主張は、多くの人の目を通して批判され醸成されるが、ネット社会には濾過機能が全く存在しない。それ故に、自分たちは勝手に多数派、

あるいはそれなりの勢力であると勘違いする。そのためか、ネットの中にとどまらず、彼らは直接行動に出やすいのである。しかも常識的な世論の洗礼を受けないので、その主張はますます先鋭化してしまう。

私が付き合っているある環境保護団体の NPO は、韓国の NPO と交流しているというだけで彼らから日常的に脅迫を受けている。彼らによる様々な妨害はマスコミや一般の企業にも及んでいるが、どういうわけかあまり大きく報道されていないのは不思議である。何を恐れているのだろうか。

彼らの心理状態や目的は私のような門外漢には簡単には分析できるものではないが、論理の単純化とすり替えにより真摯な議論を避け、憎悪を煽って不満のはけ口を造り、批判を拒否して同じ感性の者同士だけで集り、時として先鋭的な行動を起こすという彼らなりの共通点がある。福島等被災地に関する風評被害を仕掛けたり、反原発を装ったりしていることもあると聞く。

彼らの行動は確実に実害を引き起こし始めている。彼らを利用しようという勢力もないとは限らない。彼らを軽視することなく、まっとうな議論による世論の形成に努めることこそ、健全な社会を創り上げていく源であると思う。

渡邊 博

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<第 145 回 定例研究会予告>

TPP 交渉参加を問う—選択肢は TPP だけか? (2013.06.08)

TPP 交渉参加は、この 7 月の見通しですが、問題は全く不消化のままです。看過すれば、内容不明の工程だけが淡々と進んでいきます。

誰のための、何のための TPP か。「TPP の本質」を米韓 FTA から検証し、「TPP の代替案」をラテンアメリカの *vivir bien* 運動に学ぶ研究会を下記により開催します。

日時：2013 年 6 月 8 日 (土) 13:30~17:00

場所：NTC インターナショナル (株) 会議室

東京都新宿区四谷 3-5 不動産ビル 5F 会議室

(地下鉄丸の内線 四谷三丁目駅 3分)

テーマ：TPP 交渉参加を問う—選択肢は TPP だけか？

話題提供：13：30～16：30

1) TPP の本質を読む—米韓 FTA を踏まえて

金 哲洙氏 (日本農業新聞記者)

2) ラテンアメリカの「より良く生きる (vivir bien) 運動」に学ぶ

吉田太郎氏(キューバ農業評論家)

話し合い：16：30～17：00 (終了後 懇親会)

※お手数ですが、資料準備の関係がございますので、参加希望者は下記問い合わせ先に事前にご連絡下さい。会員外の皆さんの参加も歓迎します。

※問い合わせ先

TEL.03-3357-5916 FAX.03-3357-3660 (NTC コンサルタンツ・益永)

e-Mail: y.masunaga@ntc-c.co.jp

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.129』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布 (有料：1,000 円) いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次 (抜粋)

《土と太陽と》(巻頭言)

TPP は食の安全を破壊する？◎野口 勲

[第 38 回研究所総会・第 36 回山崎記念農業賞]

総会挨拶◎安富六郎

第 36 回山崎記念農業賞贈呈式 (NPO 法人 福島県有機農業ネットワーク)

[選考委員報告] ◎田口 均

[お礼の言葉] ◎渡部よしの

[受賞にあたって] 有機農業が拓く持続可能な地域づくり◎菅野正寿

[お祝いの言葉] ◎高橋久夫

[総会記念フォーラム] 福島県有機農業ネットワークの皆さんを囲んで

(1)3.11 を文明の転換点に◎長谷川 浩

(2)放射能汚染の中での農の営み、この1年

—ネットワークの仲間に支えられて◎渡部よしの

(3)つなぐ・結ぶ・創る—生産と消費、現場と研究◎大江正章

[特別寄稿]

自然栽培を追いかけて◎元田裕次

「坂の上の雲」から「崖の上のポニョ」へ◎吉田太郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から 〈1〉

「生きもの語り」は科学への違和感から生まれた／宇根 豊

<編集後記> 憂鬱な気分からの脱出

ゴールデンウィークが終わった。今年は人によっては1週間以上休めたらしく、ニュースでは観光地の模様等を報じていた。わたしはどうかというと、終わらない仕事をやりつつも、家のことも少しはこなし、家族との時間ももち.....。

それだけみれば、まあいい休みだったと思う。だが、どうにもこうにも不愉快なニュースがあった。それは、安倍総理の中東への「原発輸出」促進、いわゆるトップセールスのニュースである。

安倍総理は「世界で一番安全な日本の原発技術...」のような発言をしたらしいが、悪い冗談にしか聞こえなかった。福島第一原発事故は事故から2年以上経過したにもかかわらず収束していないし、廃炉・除染作業もなかなかすすまない。事故原因そのものも解明できたとはいいがたいし、原発事故による避難者数は福島県だけでも7万人以上にのぼる（東電発表）。

今回の原発事故であらためて思い知らされたことは、技術は、その廃棄物への対応、そして事故時の対応まで含めての技術だということだ。原発については、この両者ともあまりに不十分である。ニュースを繰り返し聞くうちに、不愉快をとおりこして憂鬱な気分になってしまった。

ゴールデンウィーク明けの5月12日、ある勉強会に参加した。有機農業関係者の方たちが集まる「中島紀一著『有機農業の技術とは何か』を語る会」だ。会には、愛知県新城市の有機農業者である松沢政満さんも参加され、自身の「農業に関する5つの信条」を披瀝された。

一、心構え

現世代の「生産条件」の優劣より、将来世代の「生存条件」の確保持続の選択という有機農業の初心を忘れない。

二、指針

「エネルギー生産業」という農業の原点（役割）に照らす

三、自然に習う農業、技術→農業の意識改革

四、地域の風土に馴染んだ農業

五、誇りと喜びのある農

『有機農業の技術とは何か』については、この編集後記でもふれたことがある（第347号）。同書の核心は、「有機農業の農業実践においては、外部資材等の投入削減が、圃場生態系や地域自然との良好な関係性の形成を促し、環境浄化・自然共生の線上での本来的生产力の向上が図られるという真に注目すべき世界が作られ始めている」（65ページ）にあるというのが私の読み方だ。

自然共生型の有機農業を実践される松沢さんの発言、とりわけ『『エネルギー生産業』という農業の原点（役割）』を聞き、真の未来の道はこちらの側（環境浄化・自然共生をつうじた本来的生产力の向上）にあると確信するとともに、憂鬱な気分からようやく脱出できたような気がした。

2013年05月16日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

（発売：2008/11 定価：1,575円）

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 353 号の締め切りは 05 月 27 日、発行は 05 月 30 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 352 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.05.16（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****